

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))																		
***	<p>○主体的に学び、思考力・表現力を育てる。</p>	<p>考える授業づくり</p> <p>基礎学力の定着と向上</p>	<p>○学習生活状況アンケート(生徒実施)の「授業で学んだことを、自分の生活に結びつけて考えようとしています。」の項目では肯定的評価が92.7%と目標値の85%を上回った。日ごろの授業で、生活に結びついた題材や話題を取り入れている成果だと考えられる。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果と全国平均との差は国語-4pt、数学-3ptとなり年々平均値に近づいている。</p> <p>○学校生活状況アンケート(生徒実施)の「少なくとも1冊は本を読んでいます。」の項目では肯定的評価が85.4%と目標値の80%を上回った。朝読書の時間を増やした取組の成果だと考えられる。</p>	<p>○継続的に生活に結びついた題材や話を授業の中に取り入れていく。</p> <p>○小中一貫教育の研究授業から、生活に結びついた題材や思考を促す発問のヒントをもらい、各授業に生かしていく。</p> <p>○補充学習を充実していく。家庭学習の課題の量、範囲の設定を的確にしていく。</p> <p>○文化委員や図書部と一緒に読書がしたくなる取組を行っていく。</p>																		
**	<p>○自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育む。</p>	<p>自校肯定感・集団適応感の向上</p> <p>規範意識の向上と豊かな心の育成</p>	<p>○学校楽しいとの「学校行事の計画や準備をやり遂げたとき、「よく頑張ったなあ」「よくやったなあ」と思う」の肯定的評価が94.1%であり、肯定的フィードバックを意識した指導が行えていると考えられる。</p> <p>○生徒、保護者対象の学校行事に関するアンケートでは、いずれも肯定的評価が95%を超えており、生徒が自ら考えて行動し、学級で協力できるよう、適切な指導が行えている成果だと考えられる。</p> <p>○学習生活状況調査の肯定的評価は、93.7%であり、生徒の規範意識向上に向けた取り組みは効果的であるとされる。特に授業前の黙想と無言清掃の、小中が一貫して行っている取り組みでは、平均よりも高い数値になっていることから、継続した指導を行っていくことで一定の成果につながるものと考えられる。</p>	<p>○日ごろから生徒の様子を把握しながら、定期的にアンケートや全員面談を実施することで、生徒がより安心・安全と思うことができる学級・学校を目指す。</p> <p>○自己肯定感の中でも「他人に好かれている」の項目が低い数値だったので、学級や部活動、縦割り活動の中で、生徒間での評価を行えるような取組を行う。</p> <p>○あいさつや返事、号令など声を出すことが必要になる場面に苦手意識がある。委員会ごとの取り組みの中で「あいさつクラスマッチ」や「号令クラスマッチ」を行う。</p> <p>○朝会など全員が集まる場での返事、あいさつについて、できたことは適正に評価し、できていなければやり直しをさせるなど、指導を徹底していく。</p>																		
*	<p>○たくましい体を育成する。</p>	<p>生徒が主体的に取り組む体力の向上</p> <p>心身の健やかな発育</p>	<p>○ハンドボール投げでは3学年男子が県平均を上回った。女子は全学年全国平均を下回っている。日頃、投動作が少ないため、平均を下回る結果になったと考えられる。</p> <p>○持久走では2・3年男子が全国平均を上回った。3年女子についても、昨年度よりは全国平均との差を縮めている。冬の持久走の成果が出ていると考えられた。</p> <p>○学校楽しいとの「学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる」の肯定的評価は92.4%であり、生徒の心に寄り添いながら、きめ細やかな学校経営を行った成果と考えられる。</p> <p>○保護者アンケート「学校は生徒や保護者の相談や悩みについて、適切に応じていると思いますか」の肯定的評価は98.9%であり、計画的に教育相談を行っている成果と考えられる。</p>	<p>○授業前の補強トレーニングを継続して行い、基礎的な体力の向上を図る。</p> <p>○授業の導入において、異チャレンジマッチの取組を進め、クラス単位で上位入賞を目指す。</p> <p>○教育相談等で確認した情報を共有するとともに、心配されるケースについてはSCによるカウンセリングにつながるなど生徒の心に寄り添った教育相談体制を継続する。</p>																		
業務改善	<p>○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備する。</p>	<p>組織的な業務改善の推進</p>	<p>○教職員アンケート「日々の業務の中で充実感を得られている」の肯定的評価は100%であるが、「スクラップアンドビルド」の肯定的評価は66.7%と継続課題である。スクラップできる内容が少なくなっていることが原因と考えられる。</p> <p>○業務が多い年度初めは、時間外勤務が増加する傾向が毎年見られる。また、「生徒と向き合う時間の確保ができていく」という教職員は75%である。</p> <table border="1" data-bbox="558 2038 1021 2105"> <thead> <tr> <th colspan="6">時間外勤務45時間未満の教職員の割合</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25%</td> <td>44%</td> <td>50%</td> <td>69%</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	時間外勤務45時間未満の教職員の割合						4月	5月	6月	7月	8月	9月	25%	44%	50%	69%	100%		<p>○スクラップのアイデアを更にボトムアップさせながら、業務の優先順位を適切に指示するなどし、教職員のモチベーションを向上させる。</p> <p>○年間の業務を見通して、業務の平準化(時期及び分担)を図る。また、計画的な教育相談によって、生徒と向き合う時間を確保することも必要である。</p>
時間外勤務45時間未満の教職員の割合																						
4月	5月	6月	7月	8月	9月																	
25%	44%	50%	69%	100%																		